

強震動観測データのさらなる利活用に向けて

巨大地変災害研究領域・地震津波火山研究センター

Point

- 強震動情報共通基盤の構築に向けて
- 強震動観測データ利活用検討委員会の設置
- 強震動データフラットファイルの公開

概要

強震観測記録は近地地震波形記録として被害をもたらす地震に関する研究には不可欠であり、耐震工学、被害想定や地震ハザード・リスク評価、緊急地震速報をはじめとする地震動即時予測などに活用され地震防災に広く貢献してきた。

防災科学技術研究所では、強震観測網を運用し、また強震観測事業推進連絡会議の事務局として各機関の強震観測の調整役を果たすとともに観測記録の利活用による研究を進めてきたことを踏まえ、国内各機関が公表している強震観測データのさらなる利活用を促進する仕組みを検討しデータの活用による地震防災・減災に資する多様な取り組みにつなげることを目的として、令和5年8月に強震動観測データ利活用検討委員会を設置し、

- ・ 事前対策のための強震観測データの利活用ニーズと利活用方法
- ・ 地震発災時・直後対応のための強震観測データのリアルタイム利活用ニーズと利活用方法

について検討、議論し、中間報告書としてとりまとめた。

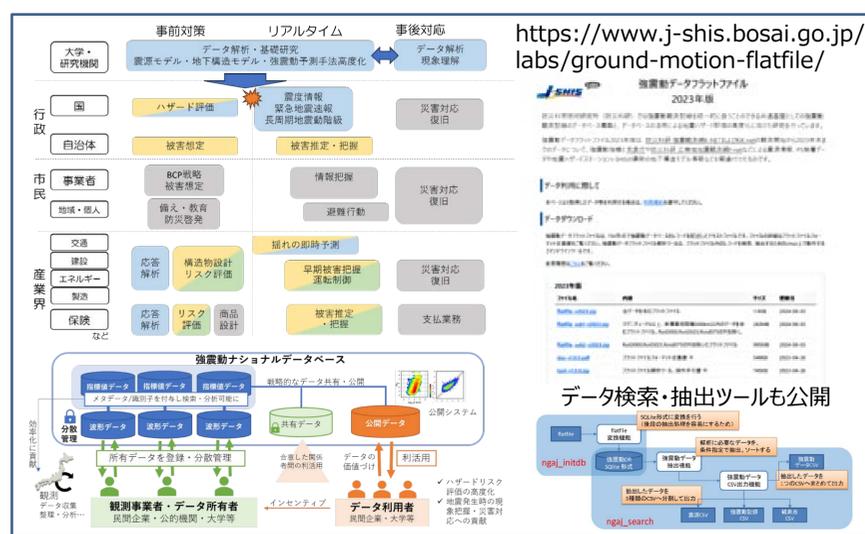
強震動観測データのさらなる利活用促進のための今後の課題として以下が挙げられた。

今後の展望・方向性

中間報告書において挙げられた課題の解決に向けて、データベースシステム構築、GMM（地震動予測モデル）検討、観測点データ、の3つのサブワーキンググループを立ち上げ、それぞれ強震動情報共通基盤（強震動データベース）構築の一環としてのシステム構築と利活用促進にかかる技術的課題等の具体的提案、強震動データの具体的な利活用事例としての複数の研究者（グルー

- ① 共通基盤としての強震動データベースの整備
- ② 観測点台帳の整備
 - ・ 公的機関の観測網への働きかけ
 - ・ 建物所有者への情報提供の働きかけ
- ③ リアルタイムでの波形データの利活用
- ④ 震度情報ネットワークの波形データの利活用

また、統一的なデータ処理方法や指標により試行的に作成してきたK-NET、KiK-net強震動データのフラットファイルを2023年末までのデータに拡充し、正式に公開した。



(中間報告書より)

プ) による経験的な地震動予測モデルの構築と地震ハザード評価における認識論的不確定性考慮の枠組み構築のための具体的提案、国内の強震観測網の観測点情報を観測点台帳として整備する取り組みを実現するための具体的提案を行うための検討を進める。

